

## コミックナタリー大賞 2015 審査員コメント集

### 1 位「ダンジョン飯」九井諒子 (KADOKAWA)

- ・ 近年人気の RPG 物の中でも群を抜いて面白い。着眼点が素晴らしいの一言。表紙デザイン、帯も作品の味をよく生かしており、編集者・デザイナーの仕事の良さも印象に残った。
- ・ とにかく、切り口の上手さ。そこがあったかというツボの突き方が素晴らしい。
- ・ 著者、待望の長編作品！脳みそに浸み込む料理の数々。美味しいそう！
- ・ タイトルが秀逸。ダンジョンと食べ物への愛が溢れていますね。
- ・ グルメものという普遍的なテーマなのにすごく新しい着眼点。今まで誰も見つけられなかったジャンルの隙間を見つけた作者に脱帽です。うんちくが多いのにスラスラ読めるネーム力の高さにも最大限の敬意を。
- ・ さも現実にあるかのように納得させられる生活臭の描き方が素晴らしいです。
- ・ 空想グルメサバイバル漫画。実在しない食材のなんて美味しそうなこと。ロールプレイングゲームに親しんだ人ならあっというまに共有出来る生活感が心地良い刺激でした。お腹すいてきます。
- ・ 考えてもみなかった発想にただ脱帽です。
- ・ 「架空の材料で料理する」。やられた〜と思った。グルメ漫画にまだそんなフロンティアがあったのか、と。このメシをうまそうに描ける九井先生の想像力とリアリティに舌を巻いた。

- ・ 多くの書店員さんに愛されていて、羨ましい作品。ギャグ好きもゲーム好きもグルメ好きもみんな好きなんて、ずるい！素晴らしい！
- ・ 料理漫画もココまで来るとどうなんだと思いますが、読んでみたらホッカリしてしまいました。
- ・ 巻を重ねても衰えない発想力にカンパイ。
- ・ 企画として似たようなものを考えてはいたのですが、本作を読んでみて哑然とした。ゲームとモンスターと飯をここまで見事に昇華できるとは…。ものすごい作家さんです。
- ・ 実在しないものを食べたくてたまらなくなるという新感覚を味あわせてくれました。
- ・ 九井さんの持つアイデアの引き出し、一度覗いてみたいです。
- ・ 想像力と妄想力に感服です…！ 料理するまで「ぜったい食べたくない！ヤダヤダ！」と思っているのに、完成したらものすごくおいしそうで…異色グルメ漫画としてもすばらしすぎます。
- ・ 今読みたい漫画はこれだよ！っていうツボにハマった作品。漫画だからこそそのキャラクター性で親近感を生み出している。
- ・ まず発想（企画力）の勝利。しかしそれだけに終わらないネタの量と、淡々としたストーリーを逆手に取ったコメディでまったく飽きさせない。素晴らしい。
- ・ 細かな設定。展開の布石の置き方と回収。そしてなによりも、ファンタジー世界での冒険者に振りかかる不幸（死）の表現に嫌味がなく、読後感が良いです。

- ・ あまたあるRPG系コミックのなかでもひときわリアルを感じる。いやファンタジーだけど。なんでも食べようとする気概に共感。この共感が売れるマンガの秘訣か。
- ・ ダンジョンの生態系やモンスターの調理法・味の描写の、妙なリアリティがスゴい。ダンジョンとグルメを掛け合わせる発想に脱帽です。
- ・ 大きな嘘を、後付けで詳細を詰めていく過程がすごいです。グルメマンガの顔をして、たぶんグルメマンガじゃないスゴサ。
- ・ 数々のグルメマンガが世の中に生み出されていく中、こんな視点でグルメマンガを描こうと思った九井先生の思考が素晴らしすぎる。RPG 風な世界観で荒唐無稽な設定なのに、なぜだか納得させられてしまいそうな、現世への価値観の寄りかかり方もちょうどいい。全く違和感がない。そして何よりキャラがみんな面白い。悔しいほどに非の打ち所がない。
- ・ ロマン欲が疼く。

## 2 位「ゴールデンカムイ」 野田サトル（集英社）

- ・ 魅力的なキャラクターとわくわくさせる謎解き。王道を行きつつ、新しい…そんな言葉で説明しなくてもただただ面白い！こんな作品を作れたらなあと思います。
- ・ 不死身の日本兵と、アイヌの可愛い少女の組み合わせ…隠された金塊…脱獄囚…陸軍師団…土方歳三……アイヌ料理。物語を構成する要素すべてにワクワクします。
- ・ ストーリー、キャラクター、アクション、そして食べる描写……全て面白い!!
- ・ 型にハマらない、破天荒なストーリー構成に衝撃を受けた。いい意味で「何の漫画かわからない」漫画。論理から言えば面白いはずがないのに、なんで

こんなに面白いんだ！悔しいと同時に、こういう型破りな漫画がまだ売れるということを証明してくれたことが素直に嬉しかった。

- ・ いろんな飯マンガが溢れている中、こんな角度があったのか、と思い知らされた。本編である、金塊を求め最強の男達の戦いが何より熱い。これが、本当の「生きるために手段を選ばない」ことなんだな、と思った。グロ系を食べるときの杉元の顔が好きです。
- ・ 今一番ワクワクする漫画活劇。
- ・ ヒロインの可愛さと食材のどぎつさのギャップにやられました。めっぽうおもしろい！
- ・ ここ数年、会社の金を使わずに、あくまで個人的な興味や志向で取材してきたことでもある設定を、『ゴールデンカムイ』ですべて、いやそれ以上にやられてしまった。最初はヤられた感が強く、悔しくて（金も使ってるし）読むのが嫌だったが、いまでは立派なイチファンとして楽しんでいます。よく調べてある！
- ・ 残酷でシリアスなメインストーリー、コミカルなキャラクター同士のやりとり、蒔蓄も入った面白いグルメ描写。それぞれがともすれば唐突に組み立てられているにもかかわらず成り立っている、絶妙なバランス感覚に驚く。
- ・ ふんだんに盛り込まれた魅力、娯楽性の高さにうなってしまう。

## 2 位「恋は雨上がりのように」 眉月 じゅん（小学館）

- ・ ここ最近の恋物語ではベスト級かと。
- ・ 女子高生と中年オジさんという 1 歩間違えば気持ち悪くなるような組み合わせをここまで瑞々しく爽やかに描かれるなんて。側で応援したくなる憎め

ないキャラクター達。とってもドキメキました。

- ・ ヒロインが可愛いのは言わずもがな、それ以上に店長が素敵な漫画。こんなカワイイオヤジが登場する漫画が作れたらいいなと刺激受けまくりです!!
- ・ 主人公の恋する表情にドキッとさせられます。こんな女の子いたらいいな…というファンタジー感と、こんな女の子きつというよ！と思わせられるリアル感のバランスが素晴らしいです。
- ・ 主人公あきらの表情や仕草の瑞々しさ。不意に人生の真理を覗き見たような驚きがある。あきらでも店長でもない第三者の我が身がもどかしい！
- ・ こんな事は実際にはないけどこんなもんでいいのだよ、ラブコメは！リアリティ無用！
- ・ バイト先のさえない中年男と彼を慕う女子高生の恋模様。ありえなさそうな設定なのに、すんなり読めてしまうのはなぜ？絵柄に情感があって瑞々しい。初恋のように初々しいふたりに、この先どんな未来が待っているのか、気になる気になる。
- ・ 恋に一生懸命な女の子は、もうそれだけで魅力的です。親目線というか親戚のおじさん目線で読んでます。
- ・ 年の差テーマは時間がかかりそうなものなのに、店長と橘さんを何気なく、しかも短期間で釣り合わせているところに驚かされました。
- ・ ヒロイン・橘あきらの眼力に惹かれて思わず買ってしまった。多くを語らないのに、ひたすら可愛いと思わせてくる一挙手一投足の描き方がお見事。エピソードの見せ方も素晴らしく、「ああ、そういうこと」とこちらが知りたいたいタイミングで大事なことを出してくるのもニクい。おかげでとにかく続きが読みたくなる。

#### 4 位「東京タラレバ娘」 東村アキコ（講談社）

- ・ リアルすぎて自分を見ているようです。
- ・ もっと若いときに読んだらダメージが深すぎて死んでいたかもしれない……。
- ・ リアルを描きながらそれでもマンガ的幸福な結末を期待させてしまうところが心にくいです。
- ・ 東村さんの厳しくも暖かいアラサー愛が好きです。
- ・ アラサー未婚の切実な不安を、愉快的笑いで昇華してくれる作品。元気がでます。
- ・ とにかく身につまされます。これほどリアルにアラサーに現実をつきつけてくださる漫画はないと思います。いつも痛楽しく読ませて頂いています。
- ・ 未来の自分を見ているようでつらい。
- ・ イタイのに楽しい！知り合いのように、幸せになってほしいと願ってしまいます。
- ・ 2020 年には…という日本人の琴線に触れる未来の時間軸のコンセプトはもちろんですが、時間（歳）というどうにもならないところを刺激するネームは、アラサー女子ならずとも全人類を殺しに来てます。
- ・ 勿論、彼女たちが出会う男やそこからの展開はファンタジーだけど、作中で問われることは現実に考えてキツイことばかり。でもそんな鋭利にグサグサ刺してくる厳しさを、彼女たちのコミカルなやり取りが笑いにしてくれて、その絶妙なバランスのおかげで、キツイよりも楽しいが勝ってどんどん読み進められてしまうのはさすがの東村先生という印象。何度も唸ってしまった。

## 5 位「波よ聞いてくれ」 沙村広明（講談社）

- ・ 饒舌で独特な台詞回しを、完璧に「物語」へと昇華していることに。
- ・ 心地よいテンポにずっと浸っていたい。
- ・ あふれかえるクソおしゃべり（褒め言葉）がとにかく快感！
- ・ 挑戦する刺激を、こちらに煽ってくるような作品。
- ・ 以前からずっと大ファンの沙村広明氏がまさかの恋愛もの!?と思って手に取ったら、やはり沙村広明氏のマンガだった。沙村先生のコメディセンスは唯一無二。普通の女性向けマンガでありそうなアイテムを沙村先生が扱うところなるのかー！と驚愕の作品。
- ・ 『ハルシオン・ランチ』同様、今作でも著者の持つ独特のギャグセンスが光っていて、おもしろかった一作です。
- ・ 会話がとにかく面白くて、長文セリフをガツガツ読みたくさせられるのがすごい。クセのあるキャラ同士がぶつかっていく様は格闘技のよう。読めばたちまち熱血漢になれる。

## 6 位「<sup>デミ</sup>亜人ちゃんは語りたい」 ペトス（講談社）

- ・ 人外モノをかなりライトにして、一般読者も取り込める形にしているなど、勉強になった作品でした。出てくる亜人たちがみんなカワイイ。男女両方の客層にアプローチできるのもまた魅力的。
- ・ 「モン娘」「実は私は」と続く、人外ハーレム。人外ヒロインの場合は1体ではなくてんこ盛りがいいんでしょうか。

- ・ かわいくてモチーフも絵柄も最先端なのに、学園青春ものとしての要素がきちんと入っていて、読み応えがあります。
- ・ 著者の絵柄に合った企画とキャラクターたちが、魅力を最大限に引き出している。
- ・ 亜人の女の子達のかわいさと、孤独・不安など彼女たちの悩みの両方が描かれ、学園ドタバタコメディでは終わらない深みがスゴい。青春ですね。

## 6 位「賭ケグルイ」 原作：河本ほむら 作画：尚村透（スクウェア・エニックス）

- ・ 美しい絵で、このテーマ、というその掛け合わせがすごく魅力的な作品だと思います。
- ・ ギャンブルもの、頭脳戦のデスゲームものは出尽くしたかと思われたが、まだまだ面白い新しい作品はあった！と刺激を受けました。百合要素も魅力的です。何より赤い色遣いの装丁が美しく刺激的。
- ・ クルイの塩梅が素敵です。主人公（ヒロイン）の、いちゃってるキャラが、一歩間違えると主人公然としなさそうなので。クルイの塩梅がすごいです。
- ・ オリジナル・ギャンブル物は得てして複雑化して読者が置いてけぼりを食らうものだが、本作はシンプルな設定で、かつスリリングなストーリーを構築している。主人公のキャラクターの存在感も抜群。
- ・ 正直なところ、描かれているゲームの内容は時々よくわからなくなって置いてけぼりを食らってしまうが、それ以上に魅力的に映るのがキャラクターたちの表情！ 1 話毎に必ずと言っていいほどに入ってくる恍惚とした女子の表情や、普段可愛く描かれた女の子たちが見るも無残な表情になる描写などが読み手を圧倒させてくる。これが見たくて読んでいる人、多いと思う。



## 6 位「僕だけがいない街」三部けい（KADOKAWA）

- ・ 軽い気持ちで1巻を読んだら、ストーリーに引っ張られて既刊を一気読みしてしまいました。「続きが気になる！」ってステキなことだと思いました。
- ・ 次のページをめくらずにはいられない！ 各話の完成度、計算しつくされた単行本のヒキ。脱帽です。
- ・ 数あるタイムリープものの中でも、とりわけ切なくて引き込まれてしまう。人は何かを得る為には何かを失うしかないのか？何度生きても、取り返しのつかないことは起きてしまうのか？畳みかけるような息苦しいまでの展開に、脱帽。
- ・ 新刊を心待ちにしているタイトル。
- ・ 読み始めたら止まらない、極上のサスペンス。周到に張り巡らされた伏線と、読み手の想像を超える展開がすごい。単行本化が待ちきれず、いつしか雑誌掲載をリアルタイムで追うことに。
- ・ 選考対象期間外ですが、第6巻での大きな転換には驚きました。タイトルの妙を感じます。

## 9 位「かくかくしかじか」東村アキコ（集英社）

- ・ 号泣、感動しかない！
- ・ まぶしすぎる師弟関係。でも、こんなに濃厚な関係ではなくても、自分の師匠たる存在について、誰しも思いを巡らせてしまう作品ではないでしょうか。
- ・ 今年で一番泣けた漫画でした。特に最終巻は涙なくしては読めません。読み終えたときに恩師に会いにいきたくなります。

- ・ 作品から伝わってくる著者のサービス精神が桁違いで、安心して身を委ねることができた。ぼろ泣きした。
- ・ 作者が重い腰をあげて描いたというだけあって、苦渋に満ちた、若干の笑いと涙の傷だらけの赤裸々な青春記。東村アキコの原点はこれだったのかと納得。真っ直ぐに漫画と向き合う心意気に、亡くなられた師匠もきっと喜んでいと思います。

## 9 位「だがしかし」コトヤマ（小学館）

- ・ 誰もが食べたことある“駄菓子”をテーマに、こんなに様々なアプローチが出来るのか…と刺激を受けました。
- ・ 本年度は、文句なしにコレ！コレです！ 1話あたり短めページテンポが小気味良く バカバカしいイラストやギャグにお腹よじらせつつ、出てくる駄菓子がどれも懐かしい！ 50 円持って今すぐ実家徒歩 2 分ダッシュなら 45 秒の駄菓子屋クリタに駆け込みたい！でもクリタ閉店してた畜生！ ということで、妙な中途半端さが逆に頭に残るタイトルと、連載の裏での取材や交渉などのご苦労を思うと 編集努力のなんたるかを考えさせられます。
- ・ やはり人の「懐かしい」は武器になるのだと痛感。共感と懐かしさ、そしていまどきの残念系ヒロイン。軽めの読みごたえも好みです。
- ・ テーマ、絵柄…。ちょっと悔しいけどお見事です。
- ・ 駄菓子というジャンルが見過ごされていたことにハッとしました。

## 9 位「響～小説家になる方法～」柳本光晴（小学館）

- ・ 強烈なキャラクター、世界を変えうる天才の姿にワクワクしっぱなしです。
- ・ 文筆の才能を漫画で描くという、とてつもなく難しい所業にチャレンジし、

キュートな女の子にその業を見事に負わせている。

- ・ マイナージャンルに怯まず切り込んで、真正面から、キャラクターを描き、真正面からテーマに切り込んでおり、背筋の伸びる想いをさせられます。人間同士の立ち居地、距離感の作り方が、秀逸でぞくぞくします。
- ・ 今年はコレが一番面白かったです。毎号予想がつかなくて、日々の楽しみです。
- ・ 音楽や漫画と同じく、フィクションの作家のすごさをどうつたえるかが難しい題材に挑んだ意欲作！

## 9 位「子供はわかってあげない」 田島列島（講談社）

- ・ 90年代のカルチャーがリミックスされていて、ピュアな10代の頃を思い出して浸りたい30代読者はいはいですね。
- ・ 面白いはずがないのに、めちゃくちゃ面白い。自分がこのネーム読んだら通さないかもしれない、と思ってしまったのが悔しかった。
- ・ 淡々と描かれる会話劇だけがもつ切れ味は、刺激的。
- ・ まぶしいボーイミーツガール。目を細めてでもいつまでも読んでいたい世界がそこにあった。
- ・ 大げさな演出のない素直なコマ運びが、今は新鮮に感じられました。新興宗教や性転換などの話題を扱いながらも、きわめて爽やかな作品なのもすごいです。

## 9 位「弟の夫」 田亀源五郎（双葉社）

- ・ LGBT に対する関心が高まってきたこの時期に、青年誌でこの作品を扱うこ

とは、とても意義のあることだと思っています。

- それぞれの登場人物の視点や考え方の違いを丁寧に描いていて心揺さぶられました。
- 時代の流れと作者のライフワークがうまく合致した良作。それでいながら、LGBT にリテラシーのない読者にもきちんとドラマを読ませる作りです。
- 淡々とした日常、しかしそれは同性愛者のいる日常を描かれています。切なさが伝わって、同性愛者じゃなくても「理解されない者」の部分に共感を持てる、時代に求められている作品だと思います。
- 同性愛という難しい題材を真摯に受け止めた良作。難しい関係性の中、それぞれが抱える想いや葛藤があって…でも、それが押しつけがましくない。キャラクター作りの妙を感じました。続き、楽しみです。

## 14 位「BLUE GIANT」石塚真一（小学館）

- 2巻以降がとにかくアツい！
- 石塚さんのマンガへのドロドロとした熱量が盛り上がるシーンを通じて伝わってきて、編集者というより人間として刺激を受けた。
- 正直で真摯ってすごく良い。沁みる。こんな人どこかにいて欲しい！傷ついてるんでしょうか僕。傷ついてますね僕。
- 東京編になって俄然面白くなってきた。面白かった話が、まだまだ前振りだったと知ったときのワクワク感がすごい。
- ライブハウスでジャズと出会って、サクソプレーヤーを目指す主人公。仲間と出会い、だんだんと力を付けていく主人公。ベタベタで力業な展開にむ

しろ爽快感を覚える。夢を追うって、そういう事かも知れないと信じられる熱い物語。

#### 14 位「RiN」ハロルド作石（講談社）

- ・ なんだかんだ今年もこの作品を安定して読み返しています。主人公とヒロインたちが被ったトラブルの「怖さ」がなんだかフィクションを超えて来るものがあるのです。キャラクターを簡単に幸せにはしてはいけない、という物語の作り方があると思うのですが、ほんとそこが上手くて非常に刺激を受けます。その事件を1つ乗り越えてホッとしたり、でもまだ解決できない萌芽が挿入されたり。ライバルとの対決、編集者との駆け引き、師匠との出会いなど人間関係も気になる、今最高の成長ストーリーだと思います。
- ・ 直近の展開はさすがハロルドさん！という怒濤の面白さ&気持ちよさ。この後どうなるのでしょうか、気になります！
- ・ ああ、こんな漫画を自分も描きたいというか、漫画に真摯に取り組む登場人物たちにあこがれます。
- ・ マンガを描くっていうこと自体、メンタルとフィジカルの両方を酷使する、修行みたいなものだから、そこから魂の深淵的な部分をかいま見ることもあるんだろうと、とても納得できてしまう。とにかく読むたびにゾクゾクする面白さ。

#### 14 位「プリンセスメゾン」池辺葵（小学館）

- ・ 「企画もの」っぽいぶんこの作者の他の作品とくらべると深さが足りない気がするが、読みやすさや親しさを与えた働きは大きい。
- ・ 独身女子が家を買う。それを「大きい夢なんかじゃありません。家を買うのに自分以外の誰の心もいらないますから」と表現してくださった池辺先生の着眼点。恋や結婚を人生の主軸としない女の人が増えていく中で、生き方

の指標としてとても大事でかけがえのない 1 冊になるだろうと感じました。  
装幀もかわいい。

- ・ 装丁と主人公のかわいさに、大人の現実がまざってくるバランスが素敵です。
- ・ 登場人物の暮らしがとってもリアルで、織りなされるストーリーは突きつけてくる部分とそれを乗り越えて行く希望に満ちていてズンとくる面白さ。美しい背景にも心が満たされる。家を探すことは人生を探すことなのか、と腑に落ちた。マンションを買うためのお役立ち情報も満載ですごく良い本！
- ・ 主人公にあまりしゃべらせないところがいいです。

#### 14 位「ラーメン大好き小泉さん」鳴見なる（竹書房）

- ・ 累計で 50 万部目前の「ラーメン大好き小泉さん」。全国ネットでドラマ化もされ、話題になった作品。無表情な主人公 JK がラーメンをすすめる度変わる表情に心を奪われてしまった。ラーメン・JK・たまに百合。多くの要素を持ち意外性とまだまだ伸びる可能性に刺激を受けた。
- ・ 食漫画もキャラだと改めて確認。
- ・ 女子とラーメンが好きなので、ちゃんと読んでないが無条件で惹かれる。読んでないのに、いい印象しかない。
- ・ 作者の、そして小泉さんの、ラーメン愛が溢れまくっています。

#### 14 位「ヲタクに恋は難しい」ふじた（一迅社）

- ・ 出てくる作品にヲタク心をくすぐられつつ、ラブコメとしてもニヤニヤさせられました。

- ・ 会話のオタクらしいリアル感が、恋愛の生々しさに直結しているなあと思います。
- ・ リズム、ネタ、絵柄、すべてのバランスに脱帽。各キャラの配置も完璧でした。
- ・ もだえ死ぬかと思いました。ふじた先生は本作を「異種恋愛格闘技をやっているまんが」とおっしゃっていますが、私は「ザ・少女まんが」だと、強く強く思います！もだえ死にました。
- ・ 装丁、イラストがステキでした。自分は男ですが宏嵩が好きです。

#### 14 位「宇宙を駆けるよだか」川端志季（集英社）

- ・ ドロドロとしがちなテーマなのに、悲壮感なく読ませてしまう展開、構成に驚かされる。あくまでも少女漫画という、パッケージを脱しないバランス感覚が見事！
- ・ 人という外見の器は内側の感情によって変わりうるのかということや本来の幸せは何かなどを考えさせる表現力や構成に期待が高まる。
- ・ 美醜の入れ替えという重くなりそうなテーマですが、爽やかに読めました。今後の展開が気になります。

#### 14 位「血界戦線」内藤泰弘（集英社）

- ・ 内藤泰弘人気作品の 10 巻目。アニメ化も決定し、勢いが出たタイミングでの単行本。味付けの強い作者の個性が十二分に発揮された作品。個性が弱い作家が量産されやすい中で、個性が強い作家が元気でうれしい。
- ・ アニメ化でファンがより拮がったのでは。著者の粋なセンスをもっともっと評価されて欲しい！

- ・ ひとつのエピソードがコンパクトに展開されながらも、世界観・キャラクターの個性を濃密に表現しているのめりこむ
- ・ ベテラン（？）が放つこのクオリティと分量に感動。
- ・ 見開き絵が「見栄」が効いててカッコイイ！！単純ですが重要な事だと思います。

#### 14 位「女の友情と筋肉」 KANA

- ・ イロモノキャラかと思いきや、読み合わるときにはヒロイン 3 人のことが好きになってしまう。そんなキャラクター作りが見事です。
- ・ 普通でないキャラクターとそえっらが違和感なく物語に組み込まれているお話の流れに作者さんのセンスの良さを感じる
- ・ ひたすらに笑えて、どこか愛しくなる不思議な女子たちには衝撃としか…（笑）。
- ・ 単純に「元気です！明日もがんばろ！」と今年一番思った作品。そういう力ってすごい。
- ・ 漫画の表現の奥深さ、広さを感じた。

#### 14 位「少女終末旅行」つくみず（新潮社）

- ・ 作品全体に漂うまったり感がなんとも。
- ・ チトとユーリのユルイ関係をいつまでも見ていたい。でもこの世界がどうなっているのかも知りたい。留まる事と進む事のどちらも求めてしまう、絶妙なバランス感覚のキャラクターと世界観に刺激受けまくりです!!



- ・ 必要なもの以外が無い世界のミニマルな喜び。大きくて小さい世界観の妙。少しずつ行動範囲が広がっていくRPG的感觉が心地いい。

#### 14 位「辺獄のシュヴェスタ」竹良実（小学館）

- ・ 新人漫画家の初連載ながら、ぐいぐい引き込まれました。強い女性の主人公が魅力的。続きが楽しみです。
- ・ 容赦のない展開、迫力。きっとみんなが悔しがる位の歴史大作になるのではと思いました。
- ・ 2話目と3話目の出来が、圧倒的で群を抜いている！月刊！スピリッツ誌はこの2年間、次々に魅力的な新人の連載を送り出し続けてきたが、竹良実はそのなかでもひとときわ輝いているように見えた。おそらくは資料を集め、読み込み、そこから想像によって世界観を作り上げているであろう、歴史漫画家としてのまっすぐな資質が作品から読み取れる。大注目の作家です。
- ・ いろんな感情よりも先に、次の巻を読みたい！という気持ちが純粋に湧き上がり、これからの新人探しへのモチベーションの刺激になった。今年一番の豊作。本当に凄まじい新人だと思う。
- ・ なんてページをめくらせる力のある作品だろうと思った。設定の丁寧だけでなく、読み手に、なにをみせて、なにを感じさせるかをすごく考えてあり、きっとその通りにハラハラしたり、ドキドキしたりした気がする。ドラマに自分が翻弄されている時間が本当に楽しい。まさにこれが、マンガを読む楽しさ。

#### 14 位「僕のヒーローアカデミア」堀越耕平（集英社）

- ・ 少年漫画が大事なことを教えてくれる。努力、友情、勝利の結晶。やっぱり熱いのはいい！

- ・ 素直に楽しい、わくわくする。主人公が強くなっていくのを応援しながら読めるって幸せです。
- ・ ジャンプの看板として、「私がきた！」とマンガ自体からも気合が感じられて、毎週読んでいると元気がわく。伝説の誕生を目の当たりにしている刺激。
- ・ 前作も前々作も画力は高いし華があるしで注目していたのですが、ド直球にして大当たりを出す仕事っぷりはさすが少年ジャンプ。

#### 14 位「恋と嘘」ムサヲ（講談社）

- ・ 女の子がとにかく可愛くて、先が気になる。そのストレートさは大事だなと思いました。
- ・ 斬新な設定と先が気になる展開、女の子の可愛らしさ、ネット漫画の特性を生かしている点など、素晴らしい作品だと思います。
- ・ W ヒロインが愛らしい！切ない結末不可避と感じられる設定なのだけでも、ドタバタと楽しいノリで話が展開して…読み心地が何ともいえない。すごくクセになります。はまります。
- ・ たった一つの設定だけで、「どう転んでも悲しい結末が待つ運命」と「圧倒的に羨ましい少年にとっての夢の状況」を作り上げている。針の穴を通すような正確さで射たワンポイント設定の凄さを感じさせる。

#### 26 位「アルテ」大久保圭（徳間書店）

- ・ 主人公のキャラクターメイクに引力があり、気持ちよく作品の中に入っている。こういった方向性の作品は、作者の意図が表に出すぎてくどくなる場合も多いが、バランスよく作れている。表紙や帯も世界観を増幅させるのに一役買っている。良い仕事と感じた。

- ・ 巻を重ねても衰えぬ筆致…！背景って大変だけどあればあるだけ素敵だよね…とあらためて思われる作品。
- ・ 緻密に描きこまれた世界と等身大の人物の融合がきっちりしていて惹きこまれる。
- ・ さまざまな差別や制限がある時代の中で、絵画職人をめざすアルテは、とても応援したくなるキャラクター。彼女の前向きさを見習わないと。

## 26 位「アンゴルモア 元寇合戦記」たかぎ七彦 (KADOKAWA)

- ・ 撤退戦の面白味をここまで味わわせてくれたのは「皇国の守護者」以来。
- ・ 作品世界も作品そのものも、いま手許にあるものを使ってどうやって生き残るかを誠実に描き、実践していて応援したくなる。
- ・ 架空の人物：朽井迅三郎を中心に、元寇における日本の奮戦の様子をリアルに描く。元寇といえば、強大なモンゴル帝国に対して貧弱な鎌倉政権が神風のおかげもあって勝てた「ラッキーな出来事」として浸透しているが、それは事実とは異なっている。当時の日本人が如何にして画策し、如何にして立ち向かったか。登場人物たちの熱い思いに感情移入し、思わず咆哮をあげてしまう…そんな日本人の根底に眠る魂を、誇りを揺さぶられる一作。
- ・ 上に同じく、元寇が面白い漫画になるなんて。劣勢を楽しんでいます。

## 26 位「いぬやしき」奥浩哉（講談社）

- ・ 漫画表現の限界に挑み、それを達成していく凄さ。
- ・ 奥先生は『GANTZ』と離れられるか気になるところ。
- ・ ある事故がもとで異星人から人知を越えたパワーを与えられた青年と老人。

ふたりは戸惑いつつも、その圧倒的な力を行使し始める。この力を持つ者は、悪魔となるのか、天使（救世主）となるのか、予断を許さない展開に汗がしたたる。パワーの発露を描く画面が素晴らしい。

## 26 位「さよならガールフレンド」高野雀（祥伝社）

- ・ 着眼点がするどく、語り口が独特でおもしろい！
- ・ コミティアご出身で確かな実力をもつ高野雀先生のデビュー単行本。同人誌の世界にまだまだステキな作家さんがいらっしゃって、ちゃんと探し当てられたということがすごい。
- ・ 漫画読みに捧ぐ漫画！読後のカタルシスがとても気持ちのいい作品たち。コミティア参加者はまだまだ可能性を秘めている…と改めて痛感しました。
- ・ カバーに描かれた工場とスクーター、そして主人公の硬い表情。そのどれもが田舎特有の鬱屈とした空気をあらわしていて、こんなにも忠実に表題作を表現したカバーイラストがあらうか、とそのディレクションに刺激を受けました。

## 26 位「そうだ、食べ放題いこう。」西つるみ（祥伝社）

- ・ めっちゃかわいい！めっちゃおいしそう！深夜に校了紙を読むと致命傷なくらいおなかがすきます。
- ・ 食レボ漫画として「作家&編集者」のコンビがこれほどに絶妙なものも多くないと思います！行ってみたい！と思う描かれ方で、ガイド本としてもたいへん有用。
- ・ 助っ人編集部員として食べ放題取材に参加して、その上で作品を読み、西先生の着眼点&デフォルメ力&食べ物の筆致に毎回驚かされました。人となりを目視的に落とし込むのがとても上手い…！

## 26 位「たそがれたかこ」 入江喜和（講談社）

- ・ 大好きとしか言えず。。
- ・ 隅田川沿いでワンカップを片手に泣いていたシーンが、主人公のそのときの感情のすべてを表現していました。その後の展開も、素晴らしいの一言。
- ・ 40 代の希望と絶望のブレンド具合が絶妙。娘の一花の揺れる 10 代っぷりも、おろおろしながら見守ってます。
- ・ なんにも心の荷物が無い状態なんてないんだよ、でも、人生はいつからでもひらけていけるし、輝いていけるんだよということを、きちんと地道に巻数をかさねるごとに伝えてくれる、希望にあふれる作品。

## 26 位「岡崎に捧ぐ」 山本さほ（小学館）

- ・ 観察眼の鋭さとギャグセンスが良い。女子向けでもこういうホビーあるあるイケるんだなーと気づかせてくれました。
- ・ 全アラサー必読の書。ファミコン、スーファミ、エトセトラ。ノスタルジーだけじゃない面白ネタも満載で漫画って楽しいと素直に言える。
- ・ 同世代であれば思わず「あるある！」となるディテールの積み重ね。また同世代でなくとも胸打つ過ぎ去った時代の喚起力。「これは自分の物語だ」と思わせる力強さは群を抜いている。
- ・ 自分が小学生の頃の、無邪気というよりは無分別な言動と、その一方で持っていた妙な思慮深さを思い出しました。

## 26 位「監獄学園」 平本アキラ（講談社）

- ・ そのギャグセンスはもちろん、ベタを踏襲しつつ新しいものを常に生み出す

姿勢を尊敬しています。そしていつも表現の限界に挑戦していて勇気づけられます。

- ・ エロ・バカ・エキサイティング!!! 雑誌連載から読みたい作品とは、こういうものだと思います。青年漫画の王道。これぞ「ヤンマガ」だと思います。
- ・ 全力の下ネタに陶酔。

## 26 位「乱と灰色の世界」入江亜季（KADOKAWA）

- ・ 鳳太郎のかなしいラストと、明日にむかうことにした乱のまばゆさをともに存分に描ききった入江さん、おつかれさまでした！楽しかったです！
- ・ 最終 7 巻！ オールキャラクター集結と分厚くぎゅっつつまった後日談、丁寧且つ圧巻の最終章でした。少女の成長が刺激的。
- ・ これくらい人を幸せな気持ちにするマンガを編集したい。

## 35 位「7SEEDS」田村由美（小学館）

- ・ 毎巻、圧倒的におもしろく、ちゃんと泣かせ続けること。そのクオリティーの高さに。
- ・ 世界観が圧巻
- ・ 緊張感のある展開をここまで長く描けることにただ読み手として満足感が高いのです。

## 35 位「NARUTO-ナルト-」岸本斉史（集英社）

- ・ 幸福すぎるラスト、15 年間有難うございました…！

- ・ 漫画界、後世に語り継がれるであろう作品の終結をリアルタイムで追えたことは、私の人生の非常に大きな財産となった
- ・ 子供の頃から読んでいる大長編。大団円に感動。完結おめでとうございます！

### 35 位「あしたのジョーに憧れて」川三番地（講談社）

- ・ 古き良き時代の漫画制作現場と言ってしまうまでも、漫画ってえのは、こうやって命とかいろんなモンを削りながら作っているんだよ！っていうのを、いま 46 歳の僕が言っても若い作家さんの 8 割には響かないようなので、ぜひ若い作家さんに読んでいただきたい作品。
- ・ ちばてつやのもとで、アシスタントをした経験のある著者が、アシスタント時代の体験を漫画にした本作。ちばてつやという作家の凄さについて改めて気づかされました。
- ・ 戦争以外にも語り継ぐべきモノがある。

### 35 位「あれよ星屑」山田参助（KADOKAWA）

- ・ 戦後の東京を描いた 1 巻と 3 巻も素晴らしいですが、2 巻の「戦中編」には驚きを隠せませんでした。中国大陆での兵隊たちのやりとりが丁寧に描写されており、ピー屋（娼婦小屋）に兵隊たちが通うシーンや、捉えた捕虜を殺せと命ぜられる川島軍曹の葛藤など、戦地での生々しさが伝わってきました。
- ・ 猥談のほうが、直接描写よりも興奮するという刺激。
- ・ すべての絵と台詞に著者の教養（広い意味での）が惜しげもなく投入された作品は強い、ということを学んだ。

### 35 位「おしえて！ギャル子ちゃん」鈴木健也（KADOKAWA）

- ・ 「ヤンキーが捨て猫に優しくするのを見てキュンとする」パターンは古くからあるが、ギャルに転用するとかくも魅力的になるのかという発見はすごい。もちろんキャラの魅力ありきだが。
- ・ ギャル子ちゃんかわいい！（自分は女ですが）ギャル子ちゃんのかかわいさに癒されました

### 35 位「お前ら全員めんどくさい！」TOBI（フレックスコミックス）

- ・ 安易なエロ描写に頼らないでも、女の子はかわいくて正義であることを証明している。
- ・ 今年はハーレムラブコメ大豊作。こう、恋愛漫画を読むにあたって、男の子と女の子がちゃんと相手を「好き」なのか、それとも好きという設定なだけなのか、分かれるところがありますが。そのへん作者がきちっと妄想してくれると読んでいて非常に心地よい。
- ・ 高校教師と女子生徒たちの微妙な関係を描くラブコメ。作品の世界観的に、これ以上エスカレートさせられないという縛りの中で、どう展開していくのか興味深々。

### 35 位「キングダム」原泰久（集英社）

- ・ 前回に引き続きの投票。巻数を重ねても面白さが全く落ちる事がない、驚異的な作品。全ての面で刺激受けまくります!!
- ・ 40 巻を間近にして、まだどんどん面白くなるのがすごい。しかもアメトーーク効果での売り伸ばし。刺激を受けました。
- ・ 国民的作品になったと言えるマンガ。飽きさせない展開で、毎週楽しみにしています。



### 35 位「ザ・ファブル」南勝久（講談社）

- ・ 大ヒット作の次に全く違うジャンルのものを描いて、それがさらに面白い。暗殺者が暗殺をしないという独自の展開も凄い。
- ・ 話のテンションの絶妙さ。安定感。
- ・ 前作と趣の違ったテーマ？と思わせておいて、作者の個性はしっかり上乗せされている。読者の期待を良い意味で裏切ったり裏切らなかったり。

### 35 位「ちおちゃんの通学路」川崎直孝（KADOKAWA）

- ・ 帯のタタキ文句「エクストリーム登校コメディ」はまさに言葉通り。女子高生が登校するだけという限定的すぎる条件でここまでバリエーションを拡げて面白く描く筆者のスキルに脱帽しました。「ゲーム脳発動！」「SAN 値が削られていく（S=したいです A=安西先生 N=尿が）」などの言葉ギャグも好きです。
- ・ 「登校」だけに特化するってすぐにネタ切れ起こしそうですが、毎回魅せる作者の力量が素晴らしいです。

### 35 位「チチチチ」クール教信者（KADOKAWA）

- ・ 獰猛すぎるチチのチカラ、圧倒的。完敗です。
- ・ よくこの表紙で出せたなあ、と驚愕。レジに持っていきにくいものの。でも買いました。いつのまにか知り合いも買ってました。表紙のインパクトって重要だよなあ、と再認識。

### 35 位「ちはやふる」末次由紀（講談社）

- ・ まさか太一がここで・・・!?という展開でまた人間関係に変化が出て今すごく

面白いです。

- ・ ぶれない
- ・ なんだか毎年投票していますが（笑）、いつも生きる活力をもらえます。少なくとも僕が今ここで投票する立場にいられているのはこの漫画のおかげです。

### 35 位「トクサツガガガ」丹羽庭（小学館）

- ・ 丹羽庭先生の“パワフルな漫画力”と、隠れオタクという“現代人あるあるネタ”が見事に融合した傑作。刺激受けまくりです!!
- ・ 日本中に潜む、全隠れ OTAKU の代弁者あらわる…！

### 35 位「ドミトリーともきんす」高野文子（中央公論新社）

- ・ このおもしろさを堪能するにはひさすら読み返さないといけない。
- ・ B5 判、定価 1200 円という特殊な作りの本でも、ベストセラーになりうることを教えてくれた。大判の本も編集したい自分にとって希望になった。
- ・ 隅から隅まで良い本。あとがきを読みながら言い知れぬ幸福感がありました。

### 35 位「ニューヨークで考え中」近藤聡乃（亜紀書房）

- ・ エッセイも上手いな。
- ・ ふんわかしたテイストで、ニューヨークの日常生活を語る。読んでいると自分もニューヨークにいるような錯覚が。淡々とした中におかしみがあって、人間って、いいなあって思えるような安心感があります。

### 35 位「バトルスタディーズ」 なきぼくろ（講談社）

- ・ 著者の実体験がネタ元のマンガはやっぱりおもしろい。体育会系の上下関係って、当時はイヤでしょうがなかったけど、大人になったらやたらと笑える不思議。
- ・ 野球漫画の懐の深さ。まだまだ野球には奥があるってのを見せてもらいました。
- ・ なきぼくろ先生と出会えた担当編集者の運に嫉妬します（笑）。

### 35 位「ハリガネサービス」 荒達哉（秋田書店）

- ・ 王道スポーツ漫画として、読んでいて気持ちがいい
- ・ 強力な先行者のいるジャンルに挑む、少年漫画らしい少年漫画。必殺技のある主人公ってやはり良いですね。

### 35 位「ホクサイと飯さえあれば」 鈴木小波（講談社）

- ・ ご飯を作る過程の描写がとても豊かで引き込まれます。作家さんの食と画作りへのこだわりを感じます。
- ・ 鈴木小波先生にしか描けない唯一無二の料理漫画!! 自分のお腹が刺激受けまくります!!
- ・ 掲載誌を移しての再始動。主人公が苦学生となったことで、料理にもその背景や事情が反映されてより物語と沿うようになった。作りたくなる。

### 35 位「リクドウ」 松原利光（集英社）

- ・ 「あしたのジョー」みたいなノリは古臭いようで逆に現代にマッチしてまし

た。

- ・ とんでもない新人が現れた、と最初に読んだ時にド肝を抜かれた。 ページから伝わる熱量がとにかくすごい。ぐいぐい引き込まれる。 爽やかさゼロの荒廃した世界観に、絶対に幸せになれなそうなんだけど確かに熱を持った登場人物たちが光る。目を背けたくなるような汚いものとか怖いものを、ものともせず平気な顔をして並べてくる。その力強さが魅力的。

### 35 位「阿・吽」おかざき真里（小学館）

- ・ 日本仏教が何をめざしていたのかが、よく分かる（気になる）作品。人間としての「開祖」の凄みが迫ってきます。
- ・ おかざき真理が歴史ものに挑戦した本作。著者の新境地を絵の迫力でもって楽しめました。
- ・ 戦国武将や近代の思想家ならいざしらず、功績が文字情報以上にはピンと来ないようなはるか遠い昔の宗教家たちを、こんな情熱的なキャラクターに仕立てあげたおかざき先生の構成力に脱帽。 とにかく力強く描かれた見開きや、ページを埋め尽くすように描かれた情報の海とかも圧倒的で、他の追隨を許さない強さを感じた。

### 35 位「塩田先生と雨井ちゃん」なかとかくみこ（イースト・プレス）

- ・ 繰り返し描かれてきた設定を、ここまで新鮮なかたちで見せられることに驚きました。
- ・ パワフルなラブコメににやにや。続きが読みたいです。
- ・ 懐かしさが一周まわって新しく感じられる絶妙な雰囲気。先生と生徒という禁断の恋ながら、禁断感がまったくしないのが平和で良かったです。

### 35 位「乙嫁語り」森薫（KADOKAWA）

- ・ 新刊が出るたびに、夜な夜な布団の中で毎晩 5 回は読んでいる。どうして森薫さんは、こんな作品が作れるのだろう？
- ・ 漫画家さんとの話題にいちばんのぼる作品。ため息の出るような素敵な世界で、時間を忘れて何度も読み返してしまいます。

### 35 位「火ノ丸相撲」川田（集英社）

- ・ ここ最近のスポーツものでは個人的ベスト。
- ・ これぞ少年漫画。こういった漫画がジャンプの中心になってほしいです。

### 35 位「花井沢町公民館便り」ヤマシタトモコ（講談社）

- ・ 絶望的な設定の中、ヤマシタさんだからこそ描ける人間の光と闇が絶妙でとても面白いです！
- ・ 外界から隔離された花井沢町では、不条理な状況下でも町人たちの暮らしは続く。住人の悲喜こもごもがエグくもドライに描かれており、その心臓のツキ具合が絶妙。心に寄ったり引いたり自在にできるところがすごい。

### 35 位「喧嘩稼業」木多康昭（講談社）

- ・ いかにも CG という、ふわふわした絵の生々しさが癖になる。リアリズムとけれんのバランスはこの作者ならではの、駆け引きやうんちくの冗長ささえ楽しい。
- ・ 最強の格闘技とは何か、をメインテーマに腕っ節のみではなく頭脳戦も展開する異種格闘まんが。毎回毎回その斜め上の発想に度肝を抜かれるが、必ず読者が望む王道展開に落ち着かせるあたり、しっかりと読者を研究し、作

品を凡作に終わらせないという作者の熱意を。そしてその作者の想いをしっかりと受け止める担当編集の心意気を、物語を通して感じることができる。毎週掲載を心より望んでおります。

### 35 位「高台家の人々」 森本梢子（集英社）

- ・ 妄想癖が止まらない女主人公に、人の心が読めてしまうテレパス能力があつて金持ちでイケメンな男の恋物語。この作者はよくも、こんな面白い設定を思いつくなあと感心。主人公の妄想がもくもくと画面に現れるところで、毎回笑ってしまいます。
- ・ 木絵ちゃんの妄想が素晴らしいと思います。

### 35 位「四月は君の嘘」 新川直司（講談社）

- ・ 主人公の有馬公生がコンクールでピアノを弾くシーンは、彼の葛藤を乗り越えピアノに向かう力強さ、その中で彼に目を奪われる観客達の描写、そして美しいモノローグや回想が渾然一体となり、ページをめくる度に鳥肌が立ちます。たたみかけるように書かれるモノローグは好みの分かれるところだとは思いますが、この漫画には必要だったと感じています。
- ・ 泣かされました。
- ・ モノクロで描かれた漫画という媒体で、ここまで色彩豊かな画面が描けるものなのかと。 3歩進んで2歩下がる、もしかしたら3歩下がってるかもしれない。そんな公生くんの遅々とした成長の歩みを、時に笑って、時に涙して、いつしか我が子のように応援し始めてしまう。そんな不思議な魅力を持った作品だと思います。

### 35 位「姉のおなかをふくらませるのは僕」 原作：坂井音太 作画：恩田チロ

- ・ タイトルからしてやられたー!! 関係性×料理という「きのう何食べた」や「高杉さん家のおべんとう」等に代表される、どちらかといえば女性からの支持を集めてきたジャンルに、男性向け、オネショタで斬りこむ意欲作！ ロングキスグッドナイトちゃん、ちょうかわいいです
- ・ ひととひととの、心のちいさな隙間を、手作り料理は埋めもする。おいしい笑顔っていいものだなあと、素直に思われました！
- ・ 血の繋がっていない女子高生と男子小学生の姉弟の、二人だけで送る日常。登場キャラが皆かわいらしい。今や一大ジャンルとなった料理ものの一つという以上に期待できる。

### 35 位「水色の部屋」ゴトウユキコ（太田出版）

- ・ 容赦なく不安をブチこんできて、ただただ感情を掻き乱される。
- ・ 読んでいて苦しいけれど読まずにはいられない。その場の空気や温度まで伝わってきそうな描写が素晴らしいです。
- ・ 怒りと気持ち悪さに震えながら、それでも読むのをやめられない！ゴトウ先生の新しい魅力、そして確かな筆力をまざまざと見せつけられました。

### 35 位「弟の顔して笑うのはもう、やめる」神寺千寿（松文館）

- ・ カラーの美しさに目が惹かれた。それから作品の漂う空気の透明度の高さに驚いた。とにかく切ない姉弟もの。モノローグの言葉選びや、各話のタイトルのセンスも好み。繊細に思えてとても芯のあるキャラクターたちが魅力。

### 35 位「田中くんはいつもけだるげ」ウダノゾミ（スクウェア・エニックス）

- ・ 狙いがスマート、時代を捉えた華麗なヒット作。

- ・ 無気力な田中くんと面倒見のいい太田くんコンビが絶妙。ゆるいけど濃ゆいです。
- ・ けだるさも、ここまできるとさすががしい。

### 35 位「徒然チルドレン」若林稔弥（講談社）

- ・ かわいい。とにかくかわいい。
- ・ オムニバスなニヤニヤ話に 頬がゆるみっぱなしで ちょっとぶっ飛んだキャラクターでも なんかこういうのクラスにいたなーって思わせてくれます。個人 WEB 公開からネットニュース、単行本化連載化というサクセスストーリーの裏にある若林先生の努力と見せ方の工夫にも感服いたしました。
- ・ 可愛い。とにかく可愛い。 思春期の少年少女たちの日常的(?)なやりとりしかないのに、こんなにニヤニヤして、時には声を出すほどに笑えてくるのは何でなんだろう。 描き分けが難しいのでは…と思えてくるほどにキャラが多いのは否めないが、読んでいるうちに全員が愛おしく見えてくる作若林先生のキャラへの愛の注ぎ方がとってもいい。

### 35 位「累 -かさね-」松浦だるま（講談社）

- ・ 美に対する女性の執念を描ききるその筆致に圧倒され、テーマ選びの大事さを学びました。
- ・ 「美」についてを問う作品は多いが、主人公がここまで醜いからこそ伝わってくる執着や憎悪がいままでになくおそろしい。美しく生まれたが故に苦しむ野菊を対極において、これからどうなっていくのか手に汗握る。
- ・ “入れ替わり”“演劇”という題材でここまで良質なサスペンスが描けるなんて！ 美しい装丁も作品の雰囲気にもマッチしていて、本棚に面陳のまま飾っておきたくなる作品。



### 35 位「聲の形」 大今良時（講談社）

- ・ テーマの強さをそれを描ききる根気、才能に圧倒されました。
- ・ 「いじめ」というデリケートで重いテーマを描ききり、見事な形でまとめあげたことに改めて脱帽。昨年度の 1 位ではあるが、完結巻が投票対象期間ということで、あえて 1 票。

### 68 位「DAYS」 安田剛士（講談社）

- ・ サッカー初心者の主人公が人一倍努力して成長していくという王道中の王道作品。主人公の青年は友達も少なくいじいじしているいじめられっ子だけど、とにかく真面目でピュア。そのピュアさに心を打たれ、泣ける場面が多数出てきます。 拙さから周りに理解されず、どんくさいだとか、不器用だとか言われることが最近カッコ悪いとされていますが、どれだけ不器用でもどんくさくても自分の道を進んでいこうとする主人公に感動を覚えます。
- ・ 王道スポーツ漫画で胸が熱くなります。王道の作品をやりたいです。

### 68 位「In These Words」 Guilt | Pleasure（リブレ出版）

- ・ 悪魔的な作画と世界観に絶対ハマってしまうはず。
- ・ 画力のレベルが飛び抜けている

### 68 位「Landreaall」 おがきちか（一迅社）

- ・ 長編ファンタジーの最高峰の域に入ってきた。
- ・ 25 巻まで来てもまったく息切れせずペースをあげてゆく稀な作品。

#### 68 位「ReLIFE」夜宵草（アース・スター エンターテイメント）

- ・ ボーンデジタル。縦スクロール。フルカラー。市場のみならず、日本の既存漫画形式そのものにも、影響を与える作品だと思います。
- ・ スマホ・縦割りスクロールにおけるネームの割り方の有り様に、すごく注目してしまいます。（従来の紙の雑誌における見開きで「ミエを切る」ことができないので）。※内容に触れずすみません。

#### 68 位「Sunny」松本大洋（小学館）

- ・ 単純に大ファンです。松本大洋先生の集大成のようで、毎巻震えながら読んでます。

#### 68 位「アフリカのサラリーマン」ガム（KADOKAWA）

- ・ サラリーマンあるあるで共感、動物設定で突き放されと、読み手として弄ばれてる感が気持ちいい。WEB マンガらしいフリーな感性にズキュンと来た。
- ・ 新進気鋭の鬼才、ガム先生の処女作。サバンナの住人のサラリーマンスタイル!? 古典絵画を思わせるパッケージが見事!! エッジの効いた内容が「コメディって才能だよな…」と思わされます。

#### 68 位「アル中ワンダーランド」まんしゅうきつこ（扶桑社）

- ・ どうかしているよ、と思いつつも現実だと思おうと読まずにはいられなくなる展開の連続。コミックエッセイですが、最高のエンタメでした。
- ・ 命を削って描いていると思います。

#### 68 位「イノサン」坂本眞一（集英社）

- ・ いくどもいくども手を止めさせられ、まぶたに、瞳に、唇に嘆息。。。
- ・ バンド・デシネ界にもなかなか見えない美しい絵柄が驚きです。しかも舞台はフランスの革命の直前で、フランス人としてありがたいばかり作品です！これから革命の話、本当に楽しみです！

### 68 位「ヴィンランド・サガ」 幸村誠（講談社）

- ・ そのままヴィンランドに行くと思いきや、全く別方向へ向かう一行。新たなキャラクターも増え、一難去ってまた一難。ホント息をつかせぬ展開で、かつ丁寧に各キャラクターの心情を描いていて、とても刺激的な作品だと思います。キャラクターを簡単には幸せにしない、というセオリーがこの作品にもあるような気がして、皆幸せになってくれいと巻を重ねる度に気を揉む作品でもあります。
- ・ 幸村誠さんにしか描けない作品、幸村誠さんが描かなければ、僕たちは見ることができない世界、完結までこのままのペースで描ききってほしい。

### 68 位「オールラウンダー廻」 遠藤浩輝（講談社）

- ・ 自身も格闘漫画を担当していますが、話やネタに引きずられるのではなく、このキャラクターがこう考えてこう動くから、このネタないし、話が必要となるんだ、漫画の「主従」が大変明快なので、とても刺激を受けております。他のジャンルでもそうだったのですが、実際にあるものを現場取材している漫画って、取材した 10 のうち 1 くらいしか入れられなかったりするのです。それでもやはりキャラクターがメインというのが、非常に良いし、あとホントに登場人物達が楽しそうでイイ奴らに見えて、読んでて楽しいです。
- ・ 自分がリングで道場で、体を動かして息を切らしているような感覚をいつも味わわされています。時折入るコメディやラブ要素も、心地よいですね～。

### 68 位「おじさんとマシュマロ」 音井れこ丸（一迅社）

- ・ おじさんがキュート。
- ・ ヒゲさんと若林くんのダブルヒロイン体制で、駆け引きを仕掛ける方も仕掛けられる方も可愛いから、ずっと見てられるバランスが素敵。pixiv 連載⇒単行本の流れも見事でした。

### 68 位「おねいも」詩原ヒロ（講談社）

- ・ 東北姉妹の日常を描いた作品。 田舎町の風景と、ありのまま心も身体も素っ裸の姉妹が絶妙にマッチし、まるでコントを見ているかのようなかった。笑いのセンス、独創性、絵の上手さ、見せ方、テクニックに刺激を受けた。
- ・ 自分ではなかなか昇華させられない田舎暮らしが、これでもかと楽しく描かれていて、「やられた」と思いました。スコップ滑りは常識です。

### 68 位「お嫁さんは神様です。」瀬川藤子（マッグガーデン）

- ・ 神様はこんかかんじかもしれないと、いつのまにか思わせる奇妙な説得力がいつもながらに凄い。

### 68 位「がっこうぐらし！」原作：海法紀光（ニトロプラス） 作画：千葉サドル（芳文社）

- ・ 脚本と作画の組み合わせはプロのお仕事。かわいらしいキャラクターたちが、スリリングなストーリーに一見そぐわなさそうで実ははまっているという…！まだまだ魅惑的な秘密が詰まっていそうなストーリーを楽しみにしています。
- ・ 原作の知名度が決して低いわけじゃないのにアニメではじめて見てその内容に驚かれる方の多さにびっくり。

### 68 位「カツシン～さみしがりやの天才～」吉本浩二（新潮社）

- ・ 手塚先生に続き、吉本さんの人物伝に外れなし。
- ・ ドキュメンタリーの表現方法として、再現ドラマや活字ではある程度の限界がある事に気付かせてくれる作品です。

### 68 位「かつて魔法少女と悪は敵対していた。」藤原ここあ（スクウェア・エニックス）

- ・ ときに苛烈なまでの可愛さ、一途さ、美しさ。多くのファンの心を捉えた創作姿勢のエッセンスが込められていると思う。

### 68 位「ギガントマキア」三浦建太郎（白泉社）

- ・ 「ど肝を抜かれる」の読後感とはまさにこれのこと。脳内麻薬が大量発生させるパワフルな一冊。「これを描きたかった」という意義込みを理屈抜きで感じ取ってしまいます。
- ・ 重厚な世界観のわりには、軽快なやりとりをするキャラクターたちの会話も面白かった。三浦先生こんなマンガも描けるのか、と驚いた。必殺技がプロレス技だったのがとても興奮！密かに続きを待ってます…

### 68 位「こくごの時間」雁須磨子（秋田書店）

- ・ 名前をつけないまま蓄積した感情に、色をつけてくれて、それぞれの人がそれぞれの名前に名づけやすくしてくれる雁須磨子さんの作品は、今年もどれも素晴らしかった。どれか一つといわれたら、ノスタルジーゆえに、今がより浮かび上がるこの作品を選びたい。

### 68 位「コンプレックス・エイジ」佐久間結衣（講談社）

- ・ コスプレという、一般読者層にはニッチに感じられるであろう題材を、ここ

まで読み手の心に寄り添う形に消化できたのは、ひとえにキャラクターの妙なんだと思います。もうすぐアラサーの派遣社員女子が、残酷な時の歩みに焦りを感じながらも、それに気づいてないフリをしながら日常と非日常を往来する姿。ものすごくリアリスティックに溢れています。

## 68 位「センセイ君主」 幸田もも子（集英社）

- ・ 登場人物みんな不器用でいい人だからずるい。コメディタッチな絵やノリをふんだんに織り交ぜながら、真正面から人間を描いていて、しびれます。大好きです。
- ・ 「先生に恋をする」そんな話はたくさんあるのに、なんでこんなときめいてしまうのだろう…。考えた結果気づいたのは、先生がすごくかわいいからではないか、ということだった。これからも大好きです。

## 68 位「その「おこだわり」、俺にもくれよ!!」 清野とおる（講談社）

- ・ 「普通の人」の地味な楽しみを、こんつつつつつつなにしそうに表現できるなんて清野先生は只者ではない。超好きです。再読性の高さが異常。インタビュー力やリアクションを何か盗めないか…と思って読んだりしても真似ができそうなところが全然なく、エッセイはご本人の魅力に依るところが大きいのだなと感じ入ります。
- ・ 全て気軽にマネが出来るネタばかりで、清野さんは新たな鉱脈を見つけたと思います。

## 68 位「チェイサー」 コージィ城倉（小学館）

- ・ 漫画家ものとしては最も異色ですが、未読の人にはもっともお薦めしたい。
- ・ まったく新しい視点からの手塚治虫の描き方、素晴らしいです。

### 68 位「なかよし 60 周年記念版 カードキャプターさくら」 CLAMP（講談社）

- ・ この作品に限らず『なかよし』『りぼん』という少女マンガ誌のブランド力の強さを感じる。一度読者だった層は、「大人になって」離れただけならば、当時の作品には戻ってくるという典型。CLAMP 作品読者年齢も広く、特に反響を起こした印象。
- ・ 描き下ろしのカバーイラストも当時の雰囲気まま、装丁も懐かしいあのコミックスを思い出されるつくりで、記念発売にふさわしい形だなと思いました。

### 68 位「ニーチェ先生～コンビニに、さとり世代の新人が舞い降りた～」原作：松駒 漫画：ハシモト（KADOKAWA）

- ・ ショートギャグながらも次々とページをめくりたくなる完成度の高さが心地いい。
- ・ 文句なしに面白い twitter 発漫画!!

### 68 位「ニンフ」今日マチ子（太田出版）

- ・ 良質なサブカルコンテンツを量産できる太田出版さんにしかできない仕事

02

### 68 位「ふしぎの国のバード」佐々大河（KADOKAWA）

- ・ 明治初頭の日本の姿をリアルに描いていて、大変興味深かったです。主人公のイザベラ・バードや伊藤のキャラクターも大変魅力的です。
- ・ 汗、息遣い、笑顔。原著よりも人々の体温を感じた。こういうリメイクの仕方があるのかと感激。画面に溢れる文物、情報の密度も印象に残る。

### 68 位「ブラッククローバー」 田畠裕基（集英社）

- ・ 少年漫画でいま一番楽しみ。終始全力&全速力で、息切れしないのかちょっと心配してしまうくらいです。でもこの全力感がたまりません。

### 68 位「プロレス狂想曲」 ニコラ・ド・クレシー（集英社）

- ・ モーニング誌の海外枠をリアルタイムで経験しそびれた自分にとって、バンド・デシネ作品が日本の普通の作品と同じように連載され、普通に商品として成立し、普通に流通したことは新鮮だった。
- ・ ニコラ・ド・クレシーの初漫画！バンド・デシネですが

### 68 位「ベルリンは鐘」 ニャロメロン（秋田書店）

- ・ 自由すぎるかと思わせておきながらも自分のルールをしっかりとっていて見せ方が素晴らしい。予想外なオチや展開を見せつけられ圧倒される。想像力の無限大さに刺激を受けた。
- ・ ニャロメロン先生の味を商業誌的枠にはめてみる、という挑戦作だと思います。むき出しのニャロメロン先生 100%がいいという人ももちろんいるだろうが、その挑戦は素晴らしいと思います。

### 68 位「ムシヌユン」 都留泰作（小学館）

- ・ 膨大な知識や経験から生まれる唯一無二の世界に圧倒されます。凄いです。
- ・ ページをめくった先がまったく想像できません。

### 68 位「ヤング ブラック・ジャック」 原作：手塚治虫 脚本：田畑由秋 漫画：大熊ゆうご（秋田書店）



- ・ たまらん！
- ・ 開高健さんなども描いた 60 年代ベトナムの湿地の匂いと人々の吐息が真に迫って感じられました！

### 68 位「ヨーソロー!! 一宜シク候一」三島衛里子（講談社）

- ・ 素晴らしい青春もの。この題材を選んだ作者の心意気を感じる。
- ・ 太平洋戦争中の航空隊が舞台というのもあって、男くさい感じなのだけど、戦いの中にある生活を読ませてくれるのが新鮮。終戦 70 年という節目にこのマンガを読めて嬉しかった。育ちの良い女王様っぽいキャラがいるのもこの後の展開が楽しみなところ。

### 68 位「ラブホの上野さん」原案：上野 漫画：博士(KADOKAWA)

- ・ ツイッターの呟きから漫画となる流れは今後もおきうと思うので、企画として参考になった。
- ・ パッケージって大事！つい手に取っちゃう、これ大事。

### 68 位「ランド」山下和美（講談社）

- ・ 人間が自分たちでつくった「囲い」の概念とはなにかという物事の深淵をのぞこうとする作者の意欲にまずガツンとやられた。そして、マンガだから表現できる「シーン」でその深淵に触れようとしている意欲にさらにガツンとやられた。
- ・ この世は本当にあるのか？深いテーマを秘めつつ、山奥の村から始まる物語は、序盤から目が離せない。双子の行く末は？「あの世」とは？気になることだらけの展開に、早く先が知りたくなります。

### 68 位「りとり・けいおす」 涼川りん（双葉社）

- ・ とにかくにも、この漫画からすごいパワーを感じずにはいられない。登場人物、一人一人の役割が確立され他の誰にもまねしようもない。画力はもちろんのこと、シナリオ、ギャグのセンスがピカイチで天才。サブカルなシチュエーション作品は昨今難しい状況とされているが、涼川先生が盛り上げてくれている。刺激を受けた 1 冊。

### 68 位「ロマンチカ クロック」 槇ようこ（集英社）

- ・ 中学生たちの青春のキラキラや主人公の杏花音の幸せオーラ、そしてなんといっても双子の蒼のクールなかつこよさ。これぞ少女漫画！という輝きにあふれていて大好きです。毎月次号が待ちきれません。ラストがとっても気になります。

### 68 位「亜人」 桜井画門（講談社）

- ・ バトルのかつこよさ、主人公のキャラクターなどすべてが新鮮で参考になりました。
- ・ ストーリーは勿論、画面構成、演出全てがハイセンスで特に台詞回しの秀逸さには毎回ため息が漏れます。踏襲されてきた漫画セオリーも壊していつてそれでいてまた物凄く面白い。カッコよすぎます。

### 68 位「海辺のエトランゼ」 紀伊カンナ（祥伝社）

- ・ “心が洗われるような BL” という帯どおり、疲れたときに読んで「いいなあ……」としみじみ思います。絵柄も内容も幸せに溢れています。
- ・ どっちが受けか攻めかわからない!? だけどそれがいい!! ピュアな BL。心が清らかになります!!

### 68 位「学校へ行けない僕と 9 人の先生」 棚園正一（双葉社）

- ・ 「スクールカースト」という言葉を近年耳にするようになりましたが、学校という場所は、どんな社会よりもうまく空気を読んで生きていかななくてはならない場所だと感じています。本作は学校に怖くて行けない主人公が息苦しさを感、様々な「先生」との出会いに救われたり傷ついたりしながらも、なんとか「フツウ」に生きていこうとする物語です。9 人目の先生との出会いが主人公にとって後の人生を決めることになったことに、強い感動をおぼえました。
- ・ 渾身の作品。この作品が棚園さんの最高傑作にならない事を祈ります。

### 68 位「甘々と稲妻」 雨隠ギド（講談社）

- ・ 巻が進んでも変わらぬかわいさ。

### 68 位「喰う寝るふたり 住むふたり」 日暮キノコ（徳間書店）

- ・ カップルの生活を女性と男性二つの視点で描くという企画性に刺激を受けました。
- ・ 毎巻毎巻にほっこりとしながらザッピングの見せ方に感心させられていましたが完結。最後までホントよかったです。NHK のドラマも雰囲気そのまま素敵でした。

### 68 位「高嶺と花」 師走ゆき（白泉社）

- ・ 残念イケメン御曹司のドヤ顔、最高です。
- ・ 庶民派女子高生とイケメン御曹司（でも残念）とラブコメディ。会話の掛け合いが楽しいです。

### 68 位「今日を歩く」 いがらしみきお（小学館）

- ・ 「生きる」とはどういうことなのか…その本質が、繰り返される朝の散歩の描写の中に凝縮されている凄み。ユーモアとペーソスと諦観と希望と…曰く言葉にならない渦のような感情が胸に充満する。何度も読み返している…自分にとっての 2015 年圧倒的 BEST タイトル。
- ・ 著者の近所散歩で経験したことをマンガにしたもの。不気味さと共にリアリティがあって、さらに不思議な温もりを感じます。 同じ人間でも「創作する者」の視点はこんなにも違うことを思い知らされます。

### 68 位「山羊座の友人」 原作：乙一 漫画：ミヨカワ将（集英社）

- ・ 画面がものすごく美しかった。
- ・ シーンの切り取り方や演出力が素晴らしかったです。印象的なシーンがいくつもありました。装丁と帯も蛍光色が生きていて店頭で目を引きました。

### 68 位「弱虫ペダル」 渡辺航（秋田書店）

- ・ アツイ！！ 今まで積み上げたものが炸裂している感じがする。

### 68 位「手紙物語」 鳥野しの（祥伝社）

- ・ きゅんきゅんしました★
- ・ 物語を紡ぐことの自由さを感じた。キラキラした破片のようなエピソードは手のひらのせてずっと眺めていたくなるよう。特に中世が舞台のお話では少年のいとしさにキュンキュンさせられた。純粹でまっすぐなものを信じたくなった本。

### 68 位「春待つ僕ら」 あなしん（講談社）

- ・ イケメンが4人集まれば、キュンも4倍かと思いきや、4倍なんてもんじゃなくて…！これぞイケメン！これぞドリーム！！男の子たちは、誰もがメインヒーローになれるかつこよさ。その1mmたりとも抜け目ない徹底ぶりに感服です。最高です～～！

## 68 位「新装版 寄生獣」岩明均（講談社）

- ・ 今読んでも新しくて衝撃。
- ・ 一連のメディア化を契機に、中学生のとき読んで以来の再読。改めて大傑作であることを確認し、めちゃくちゃ展開が早いことに驚いた。

## 68 位「清野とおるのデス散歩」清野とおる（白泉社）

- ・ 街を歩いててふと目につくちょっとだけ気になる物事。そのまま通り過ぎれば忘れてしまうような事を掘り下げたら深く濃密な人間模様が広がっている。何事も興味と好奇心をもって掘り下げていかないと面白いものは出てこないということを改めて学びました。筆者のアンテナと取材力は素晴らしいです。
- ・ 清野さんの引きの強さにドン引きする一冊です。

## 68 位「先生の白い嘘」鳥飼茜（祥伝社）

- ・ 雑誌で毎号追っていますが、いつも「怖い…」と言いながら本を閉じます。「怖いのに目が離せない」というのはこういう感覚！しかしよく取り上げられているセンセーショナルな描写や事件よりも、根底にある鳥飼先生の「怒り」に共鳴したりおののいたりしています。それを全力で漫画に落とし込もうとする鳥飼先生の真摯な姿勢に、自分もがんばらねばと思わされます。
- ・ すごく大事なことを著そうとしている。

### 68 位「大奥」 よしながふみ（白泉社）

- ・ ひさしぶりに漫画で泣きました。
- ・ 面白いーーーー死ぬほど面白いーーーー一番感動したのは次巻予告!! 「次に幕末!? この巻でこんなに面白いのに!? 次幕末!? 女将軍!? まだ面白くなるの!」と感動しました。素晴らしいです!!!!!!

### 68 位「大砲とスタンプ」 速水螺旋人（講談社）

- ・ ゆうきまさみさんに「速水螺旋人さんは好きな漫画が描けてズルい」とまで言わしめた作品。東ヨーロッパの旧共産圏の雰囲気、それを体現したような無骨且な戦闘機やガジェットのデザインは素晴らしいの一言。また兵站という事務仕事に、戦争とは激しい戦いだけでなく、お役所やサラリーマンのようなこともやるのだなと、「裏方の戦争」の面白さを感じました。
- ・ 兵站ってところに注目！

### 68 位「地獄のガールフレンド」 鳥飼茜（祥伝社）

- ・ 1話がおおよそ 16P とは思えない濃い読みごたえ。毎回名言がとびだしまくりで、ときに心をえぐられ、モヤモヤをつまびらかにされ、「女」であることを叩き付けられる、それでもなんでかスッキリとしてしまう、なんと痛快な 1 冊か！
- ・ 女の心にブスブス刺さって来る展開やセリフで、もうやめてくれと思う反面、それが快感。やっぱり面白い。

### 68 位「逃げるは恥だが役に立つ」 海野つなみ（講談社）

- ・ 「そもそも結婚をするとは何なのか、する必要があるのか」と、今の時代の空気をうまくすくい取った作品だと思います。案外結婚生活とは仕事の一部

なのかもしれない、と考えさせられます。それでも男と女が同じ屋根の下に暮らしていれば、意識してしまうこともあるということを理解した上で描かれているというのが、この作品の素晴らしさだと思います。

- ・ テーマの描き方。

### 68 位「百年結晶目録」 青井秋（プランタン出版）

- ・ 静けさの中に潜む滋味がしっかりと感じられる。それとセリフが印象的でした。

### 68 位「夫婦サファリ」 ジョージ朝倉（祥伝社）

- ・ 結婚や出産もジョージ朝倉先生の手にかかればこんなにも面白く描かれちゃうのかよっ…！と感嘆。結婚したくなるし、日歌ちゃんみたいな花のような女子になりたいくなるし、夢の国に行けばステキな出会いあるのかなっ…で夢見たりしました。 ジョージ先生のマンガは「私もこうなりたい！」と思わせる力がものすごく強いのです。たぶん、ジョージ先生のマンガ世界は現実と地続きっぽいのにキラキラ眩しいから、手が届きそう（という錯覚を起こせるの）で、いっそう憧れが強くなるんだと思います。マンガ力が凄すぎる。

### 68 位「服なんて、どうでもいいと思ってた。」 青木 U 平（KADOKAWA）

- ・ タイトルがまさに直球勝負。

### 68 位「宝石の国」 市川春子（講談社）

- ・ 近年の女性向け SF ファンタジーの中で抜きんでて作者性が高い。表紙のデザインも作品をさらに印象づけており、デザイナーの仕事が光る。4 巻の特装版のふろくも作品の世界観にあっていて好印象。ただの「販促」ではない

グッズ展開が印象に残った。

- ・ 世界観がどんどん広がって行って、ますます続きが楽しみなシリーズです。

## 68 位「漫画家ごはん日誌」はらぺこ編集部（祥伝社）

- ・ 総勢 50 名の作家さんそれぞれが十人十色で紹介した「ごはん」にまつわるお話は大変読みごたえがあった。食に関しては意外と知られていない許斐剛先生のインタビューも興味深かったです。
- ・ 月刊誌の 1P 企画が 1 冊になるとこんなに豪華…とその輝きを目の当たりにしたので。